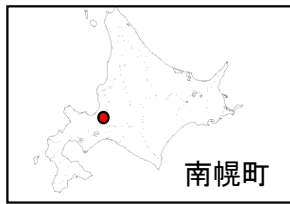


南幌町地域公共交通活性化協議会

令和5年6月16日設置



概要

南幌町は、北海道空知管内の南部に位置し、人口7,753人(2023年12月現在)、総面積81.36km²、基幹産業は農業である。近年、南幌町は人口が増加しているものの、社会情勢として地域内の路線バスは、利用者の減少、コロナ禍による運賃収入の減少、運転手不足、市町村負担の増大などで路線を維持することが困難となっていることを踏まえて、住民ニーズを把握しながら、持続可能な公共交通の構築に向けて南幌町地域公共交通計画を策定する。

○地域公共交通の現況

- ・スクールバス(3路線)・夕鉄バス(札幌代行線)
- ・高速バス(高速ゆうぱり号、高速くりやま号)
- ・ジェイ・アール北海道バス(大35南幌(長沼線)、広37南幌、広38南幌)
- ・オンデマンド交通「あいるーと」(町内全域)

○地域公共交通の課題

- ・交通弱者の移動手段となる公共交通の維持・確保
- ・周辺都市部等への広域交通の維持・充実
- ・地域公共交通の担い手不足も進展する中、持続可能な地域公共交通を確保

○調査の主な内容

- ・地域における交通乗降調査の実施
- ・地域住民のニーズ調査(アンケート調査の実施)

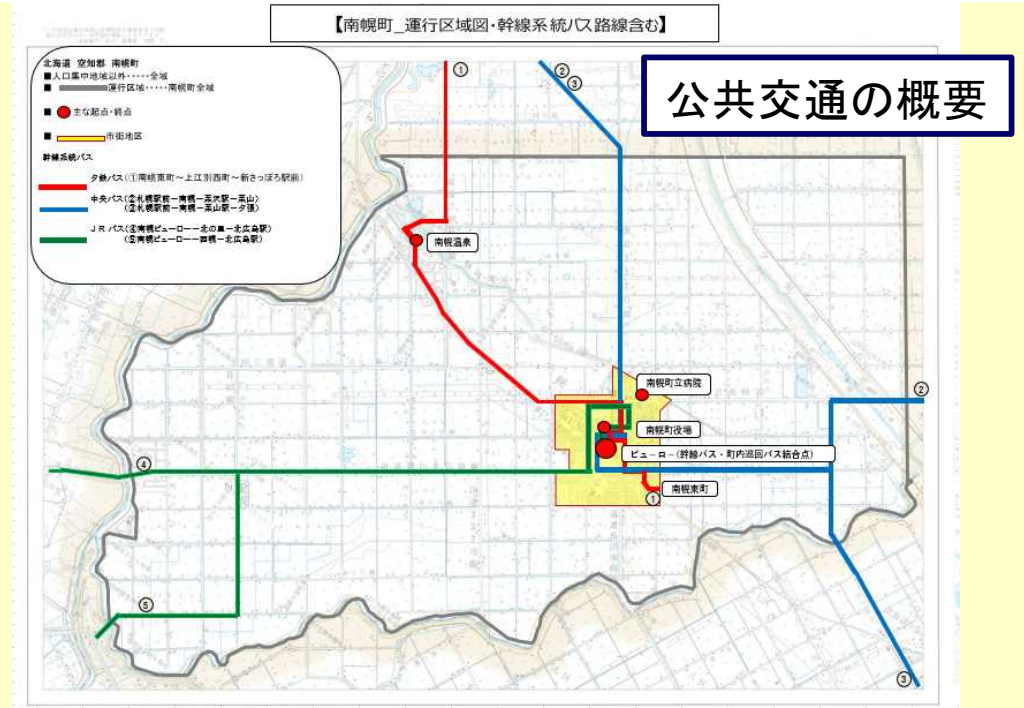
○地域公共交通活性化協議会 開催状況

6月16日 第1回協議会 主な協議事項
南幌町地域公共交通活性化協議会要綱等の制定
南幌町生活交通確保維持改善計画(案)について

9月8日 第2回協議会 主な協議事項
南幌町地域公共交通計画の策定について
南幌町公共交通に関するアンケート調査について

12月25日 第3回協議会 主な協議事項
南幌町地域公共交通計画(骨子案)について
地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

1月16日 第4回協議会 主な協議事項
南幌町地域公共交通計画(素案)について
オンデマンド交通「あいるーと」の運行内容の変更協議について



南幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【地域における交通乗降調査について】

- ・令和5年10月17日に、ジェイ・アール北海道バスにおいて乗降調査を実施。
- ・実施路線は、大35南幌1便12名、広37南幌4便9名、広38南幌5便69名

【アンケート調査の実施について】

○アンケート調査の概要

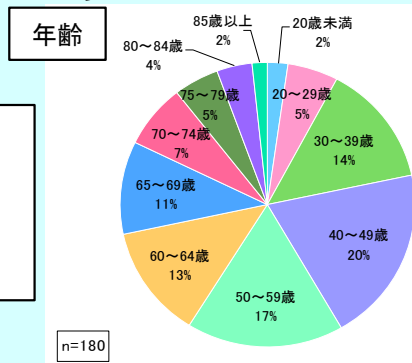
- ・令和5年9月の町広報誌へアンケート用紙を折込みし、全町民(約3,400世帯)へ配布。
- ・アンケート用紙の他、Webでの回答も可能とした。
- ・アンケートは10月18日を締切として180票の回答があった。アンケート用紙での回答が33票(約2割)、Webでの回答が147票(約8割)となった。

○調査内容

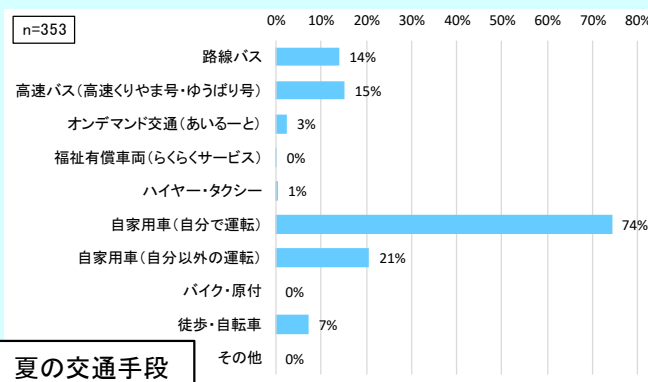
- ・回答者属性：年齢・職業、居住地区、バス停までの所要時間、自動車の運転状況、運転している場合の運転の継続意向
運転が困難になった後の対応、運転していない場合の家族等による送迎の可否
- ・移動実態：「南幌町内への移動」、「南幌町以外(札幌市・江別市等)への移動」について、外出目的地別の外出頻度・外出目的(通勤・通学・買い物・通院等)、利用手段(夏期/冬期)
- ・路線バスの利用状況・問題点：路線バスの利用頻度(夏期/冬期)、路線バスについて困っていること
- ・今後の公共交通施策に関する考え方等：町の財政負担のあり方、利便性向上を図るうえで利用したい新たな仕組み公共交通全般に対する自由意見

アンケートの主な結果

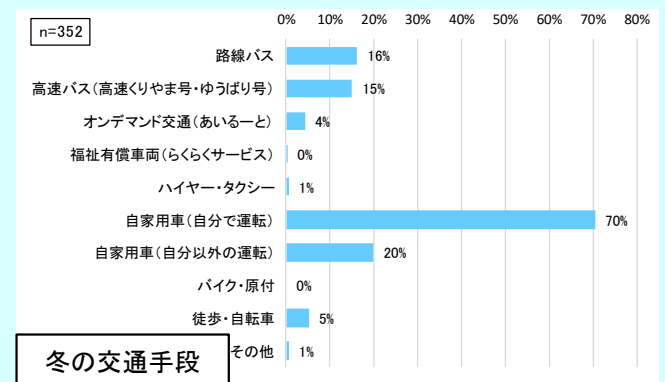
- ・回答年齢分布
- ・夏の交通手段
- ・冬の交通手段



n=180



夏の交通手段

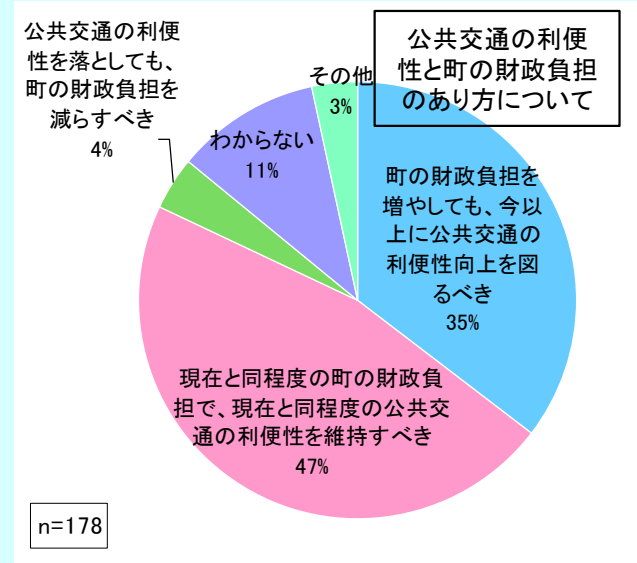
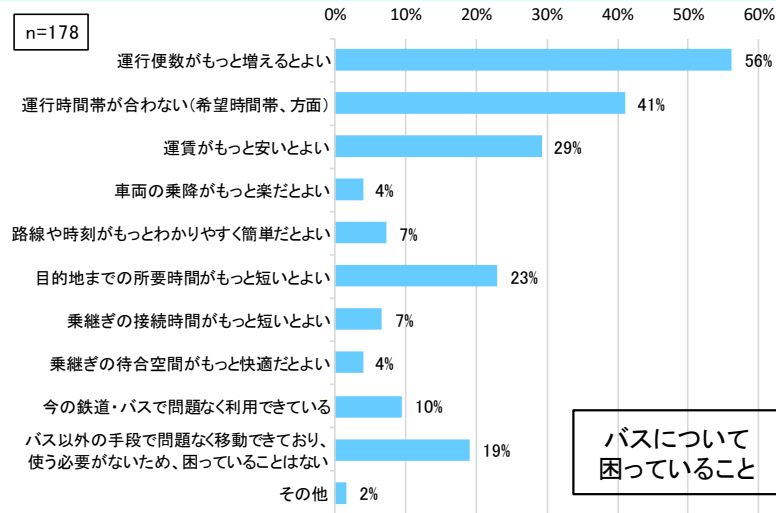


冬の交通手段

南幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

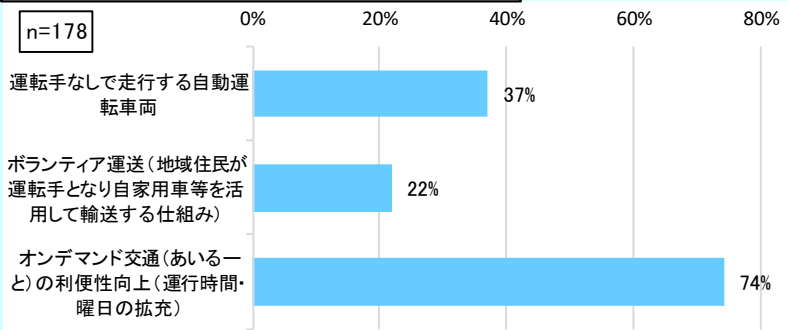
●事業の結果概要

アンケートの主な結果
 ・バスについて困っていること
 ・公共交通の利便性と町の財政負担のあり方について



アンケートの主な結果
 ・新たな仕組みが導入された場合について

・新たな仕組みが導入された場合について



アンケートの主な結果
 ・自由回答(抜粋)

・住民を増やす取り組みをしているなら、交通機関も手厚くしていくとよりみんなが住みやすいまちづくりと言えると思う。電車が無いのはわかって利用しているが、やはり子どもの通学や習いごと、娯楽での遠出などを考えると、公共交通機関は利用したい。はればななどの新しい施設のことも考えると町内以外の人を呼ぶという面でも力を入れてみる価値はあると考えます。(30~39歳)

・毎日高速バス通勤をしています。やはり、本数が少なすぎます。札幌駅発の終バスが21時35分だと飲み会とかある日は確実に乗れなく、最寄りの駅までJRで行き、タクシーで帰ってます。札幌駅発の20時代のバスを増やして欲しいです。札幌駅発19時35分を乗り遅れると次は21時35分なので、待つ時間が非常にあるので困ります。バスに乗車する方が少ないのかもしれませんが、増やしていただくと嬉しいです。(20~29歳)

・若い時は、自家用車を利用できるが、歳を経るに従い運転がおぼつかなくなる。特に冬季間が厳しい。バス会社も、経営の不安をいだき、人手不足も一層、拍車がかかる。光明が見えない。町も助成もしながら、地域交通確保に奔走されている。以前は、増便をお願いしても、会社としては人が増えるのが先と言われたものである。行政は利便性が上がれば、人は増える。なかなか噛み合わない。自動運転自動車の実用化、オンデマンドと江別駅、野幌駅、北広島駅の連結(連結していただいた分として、バス会社に補填)、路線確保助成金の支出(65~69歳)

南幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●アンケート調査結果による課題分析

【課題①：交通弱者の移動手段となる公共交通の維持・確保】

- ・外出は自家用車の利用が多い
- ・高齢化や運転免許返納者の増加により自分で運転できなくなる高齢者が増加
- ・自分で運転できなくなった場合、公共交通を利用すると回答した人が65%
- ・今後少子高齢化進み、交通弱者である高齢者や子どもたちの交通の維持・確保が必要

【課題③：地域公共交通の担い手不足も進展する中、持続可能な地域公共交通を確保】

- ・全国的にもバス運転手が不足しており、路線バスのサービス水準の維持が難しくなっている
- ・オンデマンド交通(あいるーと：実施主体は南幌町)は当初の想定より利用されているものの、運行経費の約7割は町が財政を負担している状況です。
- ・タクシー・ハイヤーの運転手も不足・高齢化している中で、利便性向上等による利用促進(収支改善)、担い手の確保を図るなど、持続的に運行可能な地域公共交通を実現していく必要がある。

課題①から課題③までを受けて、
基本理念、基本的な方針を策定

【課題②：周辺都市部等への広域交通の維持・充実】

- ・隣接する江別市や札幌市・北広島市等への移動ニーズが高い(買い物や通院、通勤通学を目的)
- ・路線バス等はダイヤ改正による減便も進んでいる状況
- ・路線の維持、利便性の向上を図るため交通時やと協調することが重要
- ・広域連携により、公共交通を維持するため、さっぽろ連携中枢都市圏地域公共交通計画や南空知地域公共交通計画(令和5年度策定予定)に基づき取り組むことが重要

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

基本的な方針・目標、目標達成のための施策・事業(案)

計画の方針・目標、施策・事業、評価

6-1. 基本理念(案)

- 1 町民が安全で快適に生活できる生活交通サービスの構築
- 2 町外との広域移動を支える公共交通体系の維持・充実
- 3 持続的な地域公共交通の実現

6-2. 基本的な方針(案)

- ・南幌町の地域公共交通に関する課題を踏まえて、公共交通が目指すべき役割を示す「基本的な方針」と方針に即した計画の具体的な「目標」を提示

方針① 町民生活や地区特性に適した生活圏交通の利便性向上

方針② 周辺都市等にアクセスする広域交通の維持・確保

方針③ 広域交通と生活圏交通の接続の円滑化

方針④ 地域公共交通の担い手確保

方針⑤ 町民の公共交通への意識醸成による利用促進

7. 方針を具体化するための施策・事業(案)

- ・目標達成のための施策・事業の内容や実施主体(行政・交通事業者等の役割分担)、実施スケジュールを提示

● オンデマンド交通の利便性向上に向けた新たな運行形態の検討

● 地区の実情を踏まえた町内移動手段の維持・確保(スクールバス、福祉有償運送などの様々な移動手段の活用等)

● 南空知地域・さっぽろ連携中枢都市圏の関係機関との連携による広域交通の維持・確保

● 周辺都市との連携を強化する広域幹線道路網の整備

● 運行情報提供や交通結節点強化等による接続性・利便性向上

● 地域公共交通を担う人材確保の取組

● 公共交通利用促進に向けた情報発信・広報活動

南幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画における事業項目の概要

課題分析を経て、基本理念・基本的な方針、方針を具体化するための施策・事業に示した事業を事業項目ごとに整理した。

事業項目 1	○交通弱者の移動手段となる公共交通の維持・確保				
合致する方針	方針①				
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の確保の観点から、ニーズを的確に把握し、町外への公共交通機関である路線バス、タクシーの維持、確保に努めるとともに、町内の交通弱者の主な移動手段となるオンデマンド交通「あいるーと」の運行を継続する。 オンデマンド交通「あいるーと」の運行については、地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）の活用や町の支援により維持・確保を図る。 				
実施主体	南幌町				
スケジュール	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
	アンケート・乗り込み調査を実施				
	アンケート調査等を実施し、ニーズ把握を行い、町が実施する				

事業項目 2	○周辺都市部等への広域交通の維持 ○地域公共交通の担い手と持続可能な地域公共交通の確保				
合致する方針	方針①、②、④				
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> バス路線の維持に向け、北海道や沿線自治体、交通事業者と協議・検討を行う。 運転手不足の解消に向けた支援策を検討する。 				
実施主体	南幌町、交通事業者				
スケジュール	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
	交通事業者と路線維持に向けた協議を行う。				

事業項目 3	○周辺都市との連携を強化する広域幹線道路網の整備				
合致する方針	方針②、③				
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 小樽市から千歳市を結ぶ道央圏連絡道路については、令和 6 年度に「中樹林道路」が開通する。残る整備区間である「長沼南幌道路」についても事業が進められている。 				
実施主体	国、南幌町				
スケジュール	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
	道央圏連絡道路の早期完成のため、関係自治体で構成する期成会による要望活動を行う。				

事業項目 4	○公共交通利用促進に向けた情報発信・広報活動				
合致する方針	方針③、⑤				
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 町内の路線バス時刻表を整理し、町広報誌やホームページ等わかりやすく情報発信を行う。 路線バスの運休情報の発信やオンデマンド交通「あいるーと」の概要やアンケート結果の公表を行う。 				
実施主体	南幌町				
スケジュール	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
	町広報誌、公式 LINE、防災無線による情報発信に努める。				

●事業実施の適切性

計画どおり適切に事業は実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・今後、地域公共交通計画策定後についても、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についてさらに検証していくことをご検討いただきたい。